

日本鐵鋼協會記事

日本鐵鋼協會第 15 回研究部會

開催日時 昭和 10 年 10 月 16 日(水)午前 9 時好晴

會場 神戸市海岸通り一丁目十六番地 神戸商工會議所

議題 第二回鋼材部會 鋼材工場に於ける熱經濟に就て

出席者

工場推薦委員 海野 三朗君 島村 哲夫君 湯川 正夫君
川村吟次郎君 伊藤 隆吉君 喜々津信一君 高宮 一士君
今本 愛一君 宇田川光七君 佐藤 政一君 藤原 唯義君
砂澤 彌平君 巖眞 璉君 郷 義二郎君 神邊 武雄君
井上 順三君 木下 泰重君 土田喜四郎君 宮川 本夫君
絹川武良司君 河合卓三郎君 橋本 亨君 外島 健吉君
伊丹榮一郎君 芦原光太郎君 西山彌太郎君 高岡 弘君
小森 富作君

協會推薦委員 齋藤 大吉君 澤村 宏君 石原寅次郎君
濱住松二郎君 藤井 寛君 川上 義弘君 横山 武人君
金子 恭輔君 小田切延壽君 淺田 長平君 工藤 治人君
嘉村 平八君

協會役員 野田 鶴雄君 水谷 叔彦君 渡邊 三郎君
松下 長久君 今泉嘉一郎君 河村 曉君 石原 善雄君
廣瀬 政次君

以上の參會者は定刻前に來集受付にて本日の順序書及席順番號入の委員名簿を受取り控室に入る、やがて定刻の振鈴に一同會場に入る議席には各自に本部作成「鋼材工場に於ける熱經濟に就て」の討議資料並に「資料提出者名簿」川崎造船所製鉄工場高岡工學士講演前刷等を配布し置き、一同の着席を待ちて野田會長開會を宣し次いで本研究部會委員長選舉を省略し會長の指名推薦を一同に諮り齋藤大吉博士を指名一同拍手を以て賛意を表す、齋藤委員長受諾の挨拶と同時に別記順序書の通り遂行され終りに臨み會長立ちて閉會を宣し本日の部會を有意義に終了せり。

日本鐵鋼協會第 12 回研究部會開催順序

部門 第二回鋼材部會 問題 鋼材工場に於ける熱經濟に就て

1. 開會の辭並に委員長選舉 會長 野田 鶴雄君
2. 講演
 - a. 鋼材工場に於ける熱經濟に就て
八幡製鐵所研究所技師 理學博士 海野 三朗君
 - b. 同上 川崎造船所製鉄工場技師 工學士 高岡 弘君
 - c. 重油燃焼加熱爐に就て
日本鋼管株式會社技師 郷 義二郎君
3. 資料一括に就て説明 本部準備委員 工學士 廣瀬 政次君
4. 各工場委員の資料に就きて説明 各工場委員
5. 討議
6. 閉會の挨拶 會長 野田 鶴雄君

日本鐵鋼協會第 15 回講演大會

講演會

開催日時 昭和 10 年 10 月 17—18 日(木祭、金)

講演會場 神戸市海岸通り一丁目 神戸商工會議所

出席者 450 餘名にして未曾有の盛況を呈す。

晚餐會 10 月 18 日(金)午後 6 時より 神戸オリエンタル

ホテルに於て開會 出席者 140 名

工場見學 出席者 各方面合計 430 名餘

昭和 10 年 10 月 19 日(土) 神戸及尼ヶ崎方面

〃 〃 20 日(日) 神戸及三木町方面

本大會は以上の通り最も盛況裡に終始せるは各關係方面を始め周囲の同情の賜にして茲に厚く感謝する次第なり、尙ほ此詳細報告は後日取纏め上梓するものなり。

理事會(昭和 10 年度第 9 回)

開會日時 昭和 10 年 11 月 6 日(水)午後 5 時

出席者 野田鶴雄君 水谷叔彦君 吉川晴十君 河村曉君

鹽田泰介君 大會委員長小田切延壽君

協議事項

1. 本會の事業擴張の爲め基本資金募集に關する件(可決)

a. 事業擴張資金收支豫算

収入之部

金 5,000 圓 収入増加年額(維持會費増額又は御寄附金利子合計)

支出之部

金 400 圓 鐵鋼に關する外國雜誌購入費

金 1,200 圓 圖書室として一室借入費(購入及寄贈圖書)

金 1,000 圓 有益なる各種鐵鋼資料の編纂費

差當第一着手として三年計劃を以て約 1,000 頁の鐵鋼便覽編纂

金 2,400 圓 以上の編纂事務擔任の技術者一名招聘費

計金 5,000 圓

- b. 基金募集方法 現在の維持會員に對しては維持會費の増額又は一時金の寄附其他鐵鋼事業關係方面に對しては一時金寄附又は新に維持會員に加盟の勧誘狀發送の件

2. 第三回工學會大會開催に關する件(卷頭の會告の通り可決)

a. 開催を一般に發表の件

b. 講演者募集の件

3. 第十三回研究部會開催並上提議題選定の件(次記の如く決定)

開催日時 昭和 11 年 4 月上旬

選定議題 第十二回の「鋼材工場に於ける熱經濟に就きて」を

繼續すること

4. 外國雜誌購入の件

(次記の 5 種を昭和 11 年 1 月より購入を可決す)

購入會誌名

- (1) Stahl und Eisen
- (2) Iron and Coal Trades Review
- (3) Journal of Iron and Steel Institute
- (4) Iron Age
- (5) Blast Furnace and Steel Plant

5. 入退會者及會員異動に關する件(自 10 月 3 日至 11 月 6 日)

イ、入會者承認數 正會員 9 名 准會員 31 名 計 40 名

ロ、准員より正員へ轉格者承認 4 名 其の氏名次の如し

道下靜雄君 初田 均君 梶 博文君 阿部象一君 長井 盛君

ハ、退會者承認 2 名 其氏名次の如し

准會員 松原三徳 〃 越智春一

二、死亡者 正會 1 名 (氏名別項)

6. 其他會務に關する諸件 (大會殘務を含む)

報 告 事 項

1. 昭和 10 年 9、10 月分收支決算
2. 第 15 回講演大會收支決算
3. 衛生工業協會會長更迭 新任者 茂庭忠次郎君
4. 鑛山局偏纂 製鐵業參考資料 私費印刷發賣許可 10 月 25 日 付商工大臣

以上を審了し午後 7 時 30 分散會す。

編 輯 委 員 會 昭和 10 年度第 7 回

開會日時 昭和 10 年 10 月 29 日(火) 午後 5 時

出席者 吉川 理事 委員 池田正二君 石原 善雄君
五百旗頭啓君 田中 清治君 長尾 武雄君 山田良之助君
鹽澤 正一君 廣瀬 政次君

協 議 事 項

1. 第 3 回工學大會開催並に同部會講演者募集廣告を會誌へ上載する事
2. 製鐵用術語集偏纂に關する件
3. 會誌第 21 年第 12 號論文原稿及第 11 號抄録原稿の選定審査
決定論文原稿
(1) 八幡製鐵所洞岡第 2 熔鐵爐に就て 山岡 武君
(2) 分塊作業の時間的考察 島村 哲夫君
(3) 高速度鋼の組織に及ぼす酸化脱炭の影響 村上武次郎君 八田 篤敬君
4. 本年神戸市に於て開會の第 12 回研究部會の「鋼材工場に於ける熱經濟に就て」の議題は討議未了に付き來春の總會を機とし同

問題の續會を開催することを理事會へ提案すること。

以上を審議し午後 8 時散會せり。

外遊中の會員より通信 英國グラスゴウより百々初男君の通信ありたり其全文次に

昭和 10 年 10 月 20 日 伊エの戰雲急なるの機

鐵鋼協會々長 會員各位 英國グラスゴウにて 會員 百々初男 拜啓秋冷の候會長始め全員諸君益々御多祥の御事と遙察仕候 去る 17 日より神戸に於て盛大なる大會を御開催との報を得、益々斯界の爲、國家の爲、御活躍の段、敬服の外なく候、小生僕去る三月花未だ早き故國を去り米國にあること約半歳、次に加奈陀を旅し、去る 9 月始英國に來着仕候、在米中には紐育在のインター・ナショナルニッケル會社金屬研究所にて實地にあたり諸種金屬に關し實驗研究するの機を得る傍コロンビヤ大學金屬科のドクター、コースを卒業致し候、時正に眞夏にて相等惡戰苦闘仕候加奈陀にては、サドベクターに滞在し、彼の世界的有名なるコッパー、クリック鑛山に入り込みニッケルの採鑛より精鍊に至る迄精細に研究することを得候其間 2 回に亘り全米並に米加聯合の鑛物學會に出列し斯界の大家と諸種の討議を爲すの好機に恵まれ候、着英後は倫敦に本據を置きミッド、ランド、スコットランド、及びウエールズに旅行尙滞在し主として金屬加工方面の研學を致し居り候、御承知の如く米國は已に約 50% 鐵鋼業恢復致し英國亦舊に復さんと致し居り彼等の努力奮闘振り亦大いに見る可きもの有之候目下滞在中のグラスゴウは世界一の大船クインメリイが現在艤裝中にて市勢相當に發展致し居り候書き度き事盡しきれざるも何れ歸朝の上に讓る可く候歸途は獨佛蘇又聯を見て、一層世界金屬界の大局を視察する豫定に候終りに臨み會長始め會員各位の御健勝を祈る。

新 入 會 者 氏 名

居 所 又 は 宛 名 先	勤 務 先 又 は 職 業	會 員 別	入 會 者 者 氏 名	紹 介 者
神戸市兵庫區和田崎町三丁目 三菱電機神戸製作所 小倉市大門町五一	三更商會小倉支店	正 會 員	宮 田 利 彦君 江 頭 辨 之 助君	楠瀬 谷 今 田 村 松 伊 瀬 戸 村 井 中 松 本 藤 四 靜 清 橋 與 隆 郎 夫 熙 弘 治 郎 郎 吉
大阪市大正區南恩加島町九一	工學士 日鐵兼二浦製鐵所 検査課長	〃	大 阪 薄 鐵 板 製 造 所 田 中 米 藏君	〃
朝鮮兼二浦北社宅 〃 〃 中社宅 〃 兼二浦 日本製鐵會社兼二浦製鐵所	工學士 〃 〃 工作課長 〃 〃 電氣課長	〃	戸 梶 晴 海君 横 山 貞 三君	〃
朝鮮兼二浦中社宅四六	〃 〃 技 師	〃	野 口 善 吉君	〃
神戸市須磨區村雨町三丁目二三番屋敷	川崎造船所製鋼工場	〃	田 口 由 三君	谷 門 佐 濱 高 田 安
神戸市灘區友田町三丁目五六	工學士 川崎造船所飛行機工場	〃	西 村 文 男君	藤 住 松 知 二 雄
大阪市北區中之島三丁目朝日ビル四階 品川白煉瓦會社大阪支店	工學士	准 會 員	青 木 熊 雄君 洲 川 愛 造君	〃
横濱市鶴見區末吉町九二一	日本鋼管會社顯微鏡試驗	〃	高 島 德 三 郎君	村 松 橋 太 郎
仙臺市靈屋下八〇 鈴木方	東北帝大工學部金屬工學科	〃	天 野 誠 君	佐 藤 知 雄
仙臺市靈屋下一一五	〃 學 生	〃	南 善 亮 君	〃
仙臺市外記丁九	〃	〃	小 山 代 三 郎君	〃
兵庫縣尼ヶ崎市難波通り六丁目一三五	日本亞鉛鍍鋼業株式會社帶鐵課	〃	木 下 開 作君	小 森 富 作
大阪市住吉區山王町二丁目二七	工學士大阪府金屬材研究所	〃	玉 田 金 次君	高 橋 清
八幡市日本製鐵會社八幡製鐵所	工學士 同所條鋼部鋼片課第六分塊工場	〃	田 村 純 治 郎君	松 原 武 三 郎

南滿洲鞍山南十條町二三ノ六	工學士 昭和製鋼所製鋼部	〃	古 賀 ^{モシ} 精 ^{テル} 華君	矢 野 耕 治
西宮市常盤町一五	第二壓延工場	〃	麻 生 友 治君	村 松 橘 太 郎
大阪市天王寺區眞法院町二四	ミカド化學工業所	〃	山 縣 義 夫君	井 上 順 三
名古屋市南區大喜新町四丁目六	工學士	〃	神 邊 武 雄君	竹 内 保 資
大阪市大正區南恩加島町九〇	工學士 大同電氣製鋼所	〃	河 本 信 夫君	村 松 橘 太 郎
九十亞鉛鐵株式會社	工學士	〃	長 野 ^{キン} 金 ^キ 城君	中 島 道 文
神戸市灘區永手町二丁目五〇	川崎造船所製鐵工場	〃	平 方 淳 一君	〃
神戸市川崎造船所製鐵工場薄板課		〃	生 田 節君	佐 藤 知 雄
仙臺市教養院一ノ二柳田方	東北帝大金屬工學科學生	〃	鴨 志 田 次 男君	〃
仙臺市米ヶ袋廣丁二白石光隆方	〃	〃	山 田 史 郎君	〃
仙臺市東北帝大金屬工學科	〃	〃	松 尾 重 知君	松 本 與 三 郎
朝鮮兼二浦製鐵所		〃	寺 岡 作 市君	〃
朝鮮兼二浦中社宅二一	日鐵兼二浦製鐵所技師補	〃	武 市 知 夫君	山 田 兵 衛
神戸市葦合區脇濱町神戸製鋼所		〃	御 幡 吉 夫君	嘉 村 平 八
小倉市篠崎清水町二二六六頓入趣一郎方	明治專門冶金學生	〃	大 内 ^{シユン} 俊君	的 場 幸 雄
神戸市東川崎造船所	工學士 艦船工場	〃	自 川 龍 水君	嘉 村 平 八
尼ヶ崎市昭和通七丁目一八五梅崎方	尼ヶ崎製鋼所	〃	末 次 吉 孝君	村 井 三 郎
福岡市住吉中人參町一八八	渡邊鐵工所兵機部	〃	佐 竹 研 二君	田 中 清 治
城東區北砂町三ノ三五六柳瀬方	日立製作所龜戶工場	〃	青 山 豐君	佐 藤 知 雄
仙臺市東北帝大工學部金屬工學科	學 生	〃	佐 ^{タツ} ^{ヒサ} 々 木 忠 尙君	村 上 武 次 郎
大阪府泉北郡高石町六二ノ一四	豐田自動織機株式會社 大阪工場	〃	望 月 修 次君	伊 丹 榮 一 郎
神戸市葦合區脇濱町神戸製鋼所研究部		〃	阪 本 義 憲君	東 仙 太 郎
戶畑市明治專門學校冶金學教室	學 生	〃		

死 亡 會 員

本會正會員 佐藤英一君の逝去は洵に痛惜の至りなり茲に謹んで用意を表す